

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察注意報について

平成28年度病害虫発生予察注意報第6号を発表したので送付します。

平成28年度病害虫発生予察注意報第6号

- 1 作物名 さとうきび
- 2 害虫名 メイチュウ類(カンシャシクイハマキ)
- 3 発生地域 沖縄県全域

4 注意報発令の根拠

(1) 沖縄群島

沖縄本島における1月中旬の巡回調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は3.0%（前年3.2%、平年4.3%）と平年並であった（表）。芯枯茎切開調査の結果、確認されたメイチュウ類幼虫のうち74.6%が本種であり、平成26年度及び平成27年度に比べて約5倍の本種幼虫が捕獲された。防除員による久米島における1月中旬の巡回調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は14.3%であった。

(2) 宮古群島

宮古島における1月中旬の巡回調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は18.7%（前年8.2%、平年7.3%）と平年より高かった（表）。芯枯茎切開調査の結果、確認されたメイチュウ類幼虫のうち94.3%が本種であった。防除員による多良間島における1月中旬の巡回調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は17.2%であった。

(3) 八重山群島

石垣島における1月中旬の巡回調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は8.8%（前年7.3%、平年4.5%）と平年より高かった（表）。芯枯茎切開調査の結果、確認されたメイチュウ類幼虫のうち35%が本種であった。合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は4.7頭（前年2.8頭、平年3.1頭）と平年より多かった。

表 地域別の芯枯茎率、合成性フェロモントラップによる誘殺数および切開調査によるカンシャシクイハマキの割合

地域名	芯枯茎率(%)			フェロモントラップへの雄成虫の誘殺数 (頭/日/トラップ)			カンシャシクイハマキの割合(%)
	今月	前年	平年	今月	前年	平年	
沖縄群島	3.0	3.2	4.3	0.6	0.6	0.6	74.6
宮古群島	18.7	8.2	7.3	16.9	9.7	13.2	94.3
八重山群島	8.8	7.3	4.5	4.7	2.8	3.1	35.0

5 発生生態および被害

- (1) 沖縄では年6～7世代を重ね、周年発生する。
- (2) 卵は葉の付け根や茎などに1～数卵ずつ産み付けられ、1雌当たりの生涯産卵数は200～500卵に達する。
- (3) ふ化幼虫は葉鞘の内側を下降して節部の芽や根帯から食入し生長点を加害し芯枯れを起こす。
- (4) 被害はほ場に散在的に発生する。

6 防除上注意すべき事項

- (1) ほ場および周辺の除草を徹底する。
- (2) 発芽揃期から有効分けつ期の芯枯れ防止をねらい、培土時に食入初期の幼虫を対象にした薬剤防除を行う。
- (3) 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液が浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- (4) 薬剤防除後、2～3週間をおいて再度防除を行うことで防除効果が高まる。
- (5) 被害の多い地域では薬剤による一斉防除を行う。



図1 宮古島における被害ほ場



図2 芯枯茎



図3 カンシャシンクイハマキ老齢幼虫



図4 カンシャシンクイハマキ老齢幼虫(上)
とイネヨトウ中齢幼虫(下)